



# KURIYAMA

## 2019年12月期 決算説明会

2020年3月9日

クリヤマホールディングス株式会社（東証二部：3355）



クリヤマホールディングス株式会社  
KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION



# 目次

1. 2019年12月期決算概要	3
2. 実績と見通し	9
3. 事業戦略	15
4. 東京2020採用実績	23
5. ESGへの取り組み	27
6. 補足資料	31

# 1. 2019年12月期決算概要

# 連結業績サマリー

## 売上高、営業利益共に過去最高

(百万円)

	2018年実績	2019年実績		増減率(%)	
		予想	実績	予想比	前期比
売上高	52,006	55,500	55,130	△0.7	+6.0
営業利益	2,128	3,050	3,114	+2.1	+46.3
経常利益	2,749	3,250	3,175	△2.3	+15.5
当期利益	1,739	2,100	2,030	△1.9	+16.8

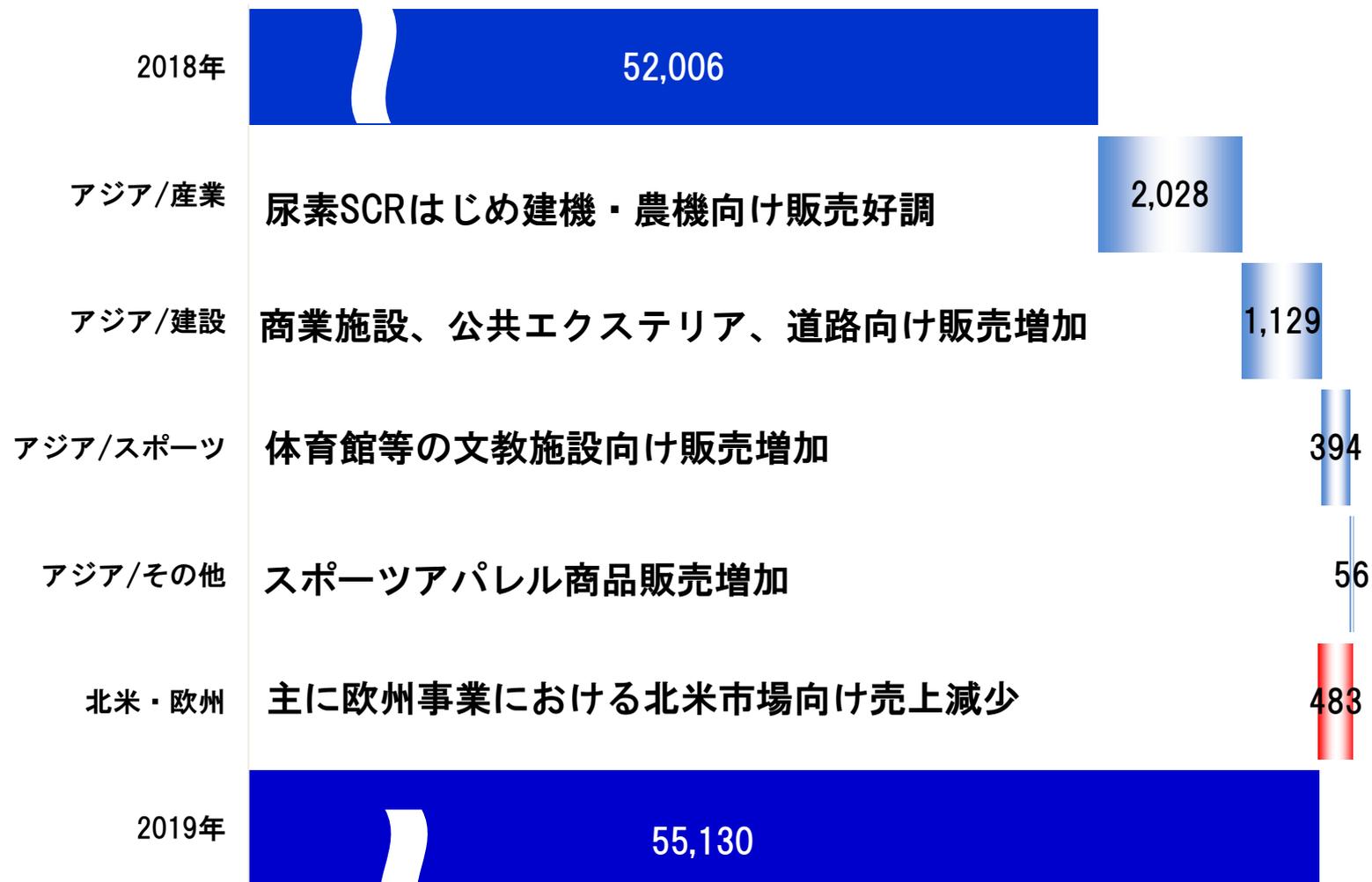
		2018年実績	2019年予想	2019年実績
為替 レート	米国\$	110.36円	107円	109.24円
	カナダ\$	84.87円	83円	82.42円
	ユーロ€	130.01円	125円	122.15円
	中国元	16.64円	15.50円	15.82円

為替換算影響額 (百万円)		
米国\$	売上高	200
	営業利益	15
ユーロ€	売上高	40
	営業利益	0

# 2019年 売上高増減要因

## アジア事業の伸張により4期連続で増収

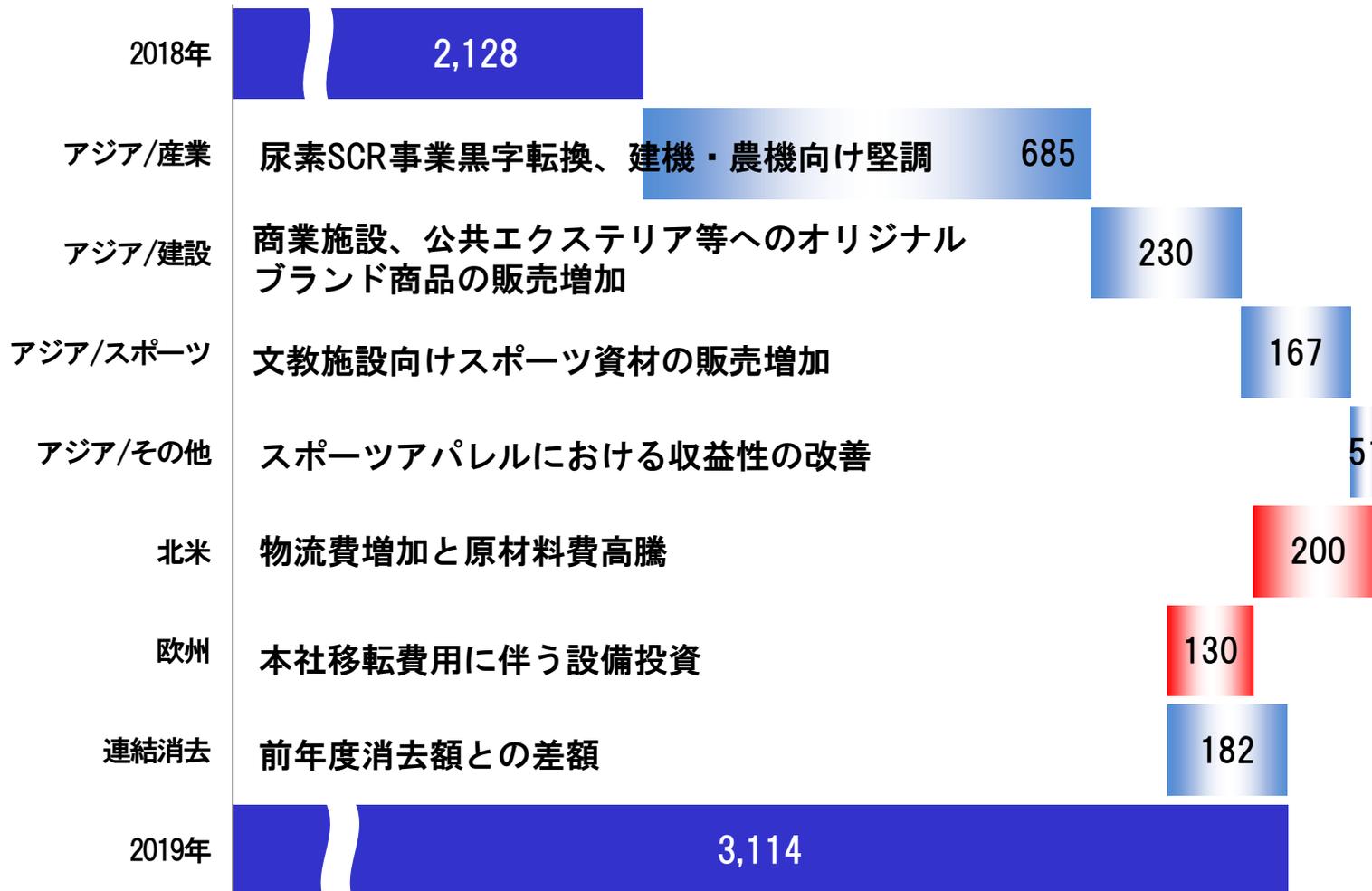
(百万円)



# 2019年 営業利益増減要因

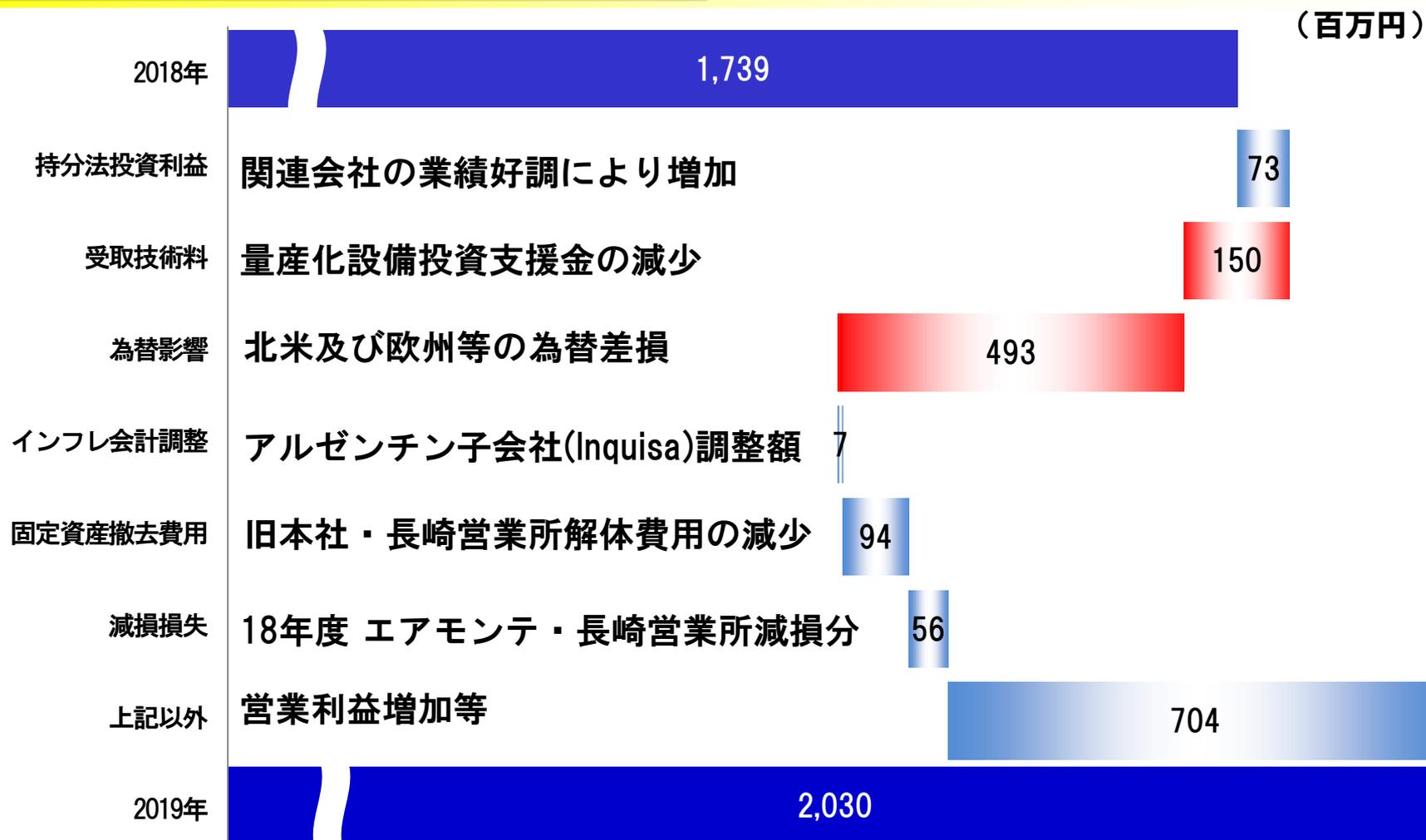
## 尿素SCR関連を基点にアジアグループが全体を大きくけん引

(百万円)



# 2019年 当期利益増減要因

## 本業における収益力向上が貢献



# セグメント別売上高・営業利益

(百万円)

		2018年度	2019年度	前期比(%)	POINT	
アジア事業	産業資材事業	売上高	13,970	15,999	+14.5	尿素SCRモジュール・タンク等の販売増加
		営業利益	1,111	1,796	+61.7	前期赤字だったサンエーの黒字化及び営業利益増加
	スポーツ・建設資材事業	売上高	9,935	11,459	+15.3	「タラフレックス」及び「モンドトラック」インフラ関連・商業施設用タイルの販売増加
		営業利益	656	1,054	+60.6	上記売上増加に伴う増加
	その他事業	売上高	739	795	+7.6	「MONTURA」の販売増加
		営業利益	△172	△121	—	「MONTURA」ブランドの販売強化に伴う販管費が影響
アジア事業		売上高	24,646	28,254	+14.6	サンエーの黒字化と、好調な国内建設投資による建設・スポーツ関連物件の受注増加
		営業利益	1,594	2,729	+71.2	
北米事業		売上高	23,339	23,297	△0.2	現地通貨ベースでの売上増加も、為替の影響により減少
		営業利益	1,610	1,409	△12.5	臨時労働費、物流費増加、中国製原材料費アップ等
欧州事業		売上高	4,020	3,579	△11.0	米国向け販売の伸び悩み
		営業利益	△90	△220	—	生産性向上のための先行設備投資費用や価格競争激化による原価率の上昇
連結		売上高	52,006	55,130	+6.0	アジア事業が全体収益を大きく牽引
		営業利益	2,128	3,114	+46.3	

※営業利益のセグメント間取引消去及び全社費用は表示していません

## 2. 実績と見通し

# 2020年12月期 連結業績予想

(百万円)

	2020年 上期予想			2020年 通期予想		
	2019年 上期実績	2020年 上期予想	前期比(%)	2019年 通期実績	2020年 通期予想	前年比(%)
売上高	29,394	29,500	+0.4	55,130	56,500	+2.5
営業利益	2,063	2,100	+1.8	3,114	3,200	+2.7
経常利益	2,067	2,100	+1.6	3,175	3,300	+3.9
当期利益	1,411	1,400	△0.8	2,030	2,200	+8.4

		2019年予想	2019年実績	2020年予想
為替 レート	米国\$	107円	109.24円	105円
	カナダ\$	83円	82.42円	81円
	ユーロ€	125円	122.15円	116円
	中国元	15.5円	15.82円	15.0円

# セグメント別通期予想

(百万円)

		2019年 実績	2020年 予想	前期比 (%)	POINT	
アジア事業	産業資材	売上高	15,999	15,850	△0.9	尿素SCRモジュール・タンクのディーゼル自動車向け販売堅調予想。新規建機、農機、トラック向けの需要の取り込み
		営業利益	1,796	1,679	△6.5	
	スポーツ建設資材	売上高	11,459	11,612	1.3	老朽化対策や防災拠点としての建設需要増加、商業施設、鉄道施設、公共エクステリア、スポーツ施設へのオリジナルブランドの展開
		営業利益	1,054	931	△11.7	
	その他	売上高	795	1,011	27.1	「MONTURA」のブランディング強化による販売増加。ダストコントロール用マットの開発強化
		営業利益	△121	△42	—	
アジア事業		売上高	28,254	28,474	0.8	多角的事業展開により引続き安定した収益を確保
		営業利益	2,729	2,568	△5.9	
北米事業		売上高	23,297	24,066	3.3	在庫の適正化と物流費の抑制 大統領選、米中貿易摩擦等の不確定要素への対応
		営業利益	1,409	1,461	3.7	
欧州事業		売上高	3,579	3,959	10.6	生産効率の改善と生産能力強化による新規顧客開拓
		営業利益	△220	28	—	
連結		売上高	55,130	56,500	2.5	
		営業利益	3,114	3,200	2.8	

※営業利益のセグメント間取引消去及び全社費用は表示していません

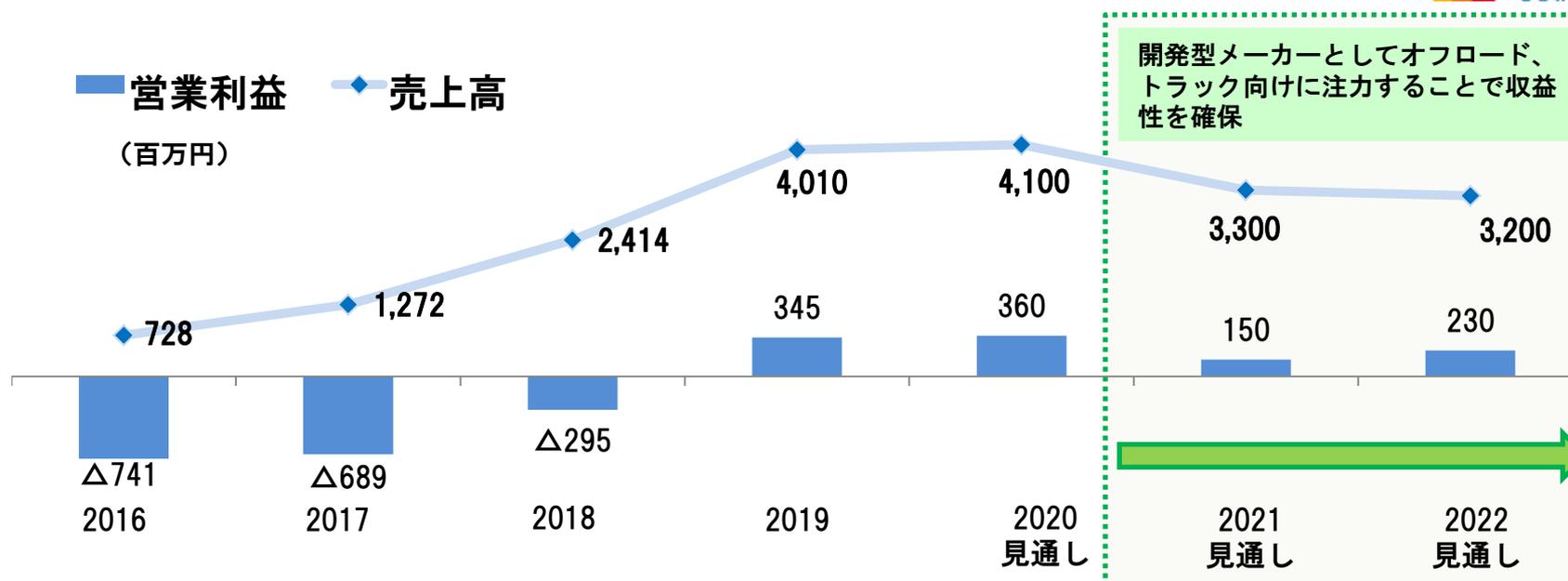
# 業績見通し（産業）

## 建設機械・農業機械、トラック市場への拡販

（百万円）	2019年実績	2020年予想	前年比（%）
売上高	15,999	15,850	△0.9
営業利益	1,796	1,679	△6.5



## （株）サンエー単体業績推移の見通し



# 業績見通し（建設・スポーツ）

防災拠点としての有用性も備えた屋内施設向け「タラフレックス」の需要増

（百万円）	2019年実績	2020年予想	前年比（%）
売上高	11,459	11,612	+1.3
営業利益	1,054	931	△11.7



# 業績見通し（その他）



「MONTURA」の強みを活かした新たなブランディング戦略

（百万円）	2019年実績	2020年予想	前年比（%）
売上高	795	1,011	+27.1
営業利益	△121	△42	—



# 業績見通し（北米）

在庫の適正化と物流費の抑制による収益性の改善

(百万円)	2019年実績	2020年予想	前年比 (%)
売上高	23,297	24,066	+3.3
営業利益	1,409	1,461	+3.7



# 業績見通し（欧州）

営業力強化と工場稼働率最適化による収益性の改善

(百万円)	2019年実績	2020年予想	前年比 (%)
売上高	3,579	3,959	+10.6
営業利益	△220	28	—



## 3. 事業戦略

# クリヤマグループ事業戦略

## グローバル戦略

1. 日本の建機・農機のグローバルTier1サプライヤーを目指す
2. 産業用ホースメーカーとして世界No.1ブランドを目指す
3. 現地生産・現地販売を推進する

## 1. 日本の建機・農機のグローバルTier1サプライヤーを目指す



- 各国の排ガス規制強化に伴う尿素SCRモジュール・タンクの更なる拡販
- 尿素SCRモジュール・タンクの次世代センサー等製品開発の強化
- 海外でも日本と同じ水準の品質、製品を安定供給するための体制構築

## 2. 産業用ホースメーカーとして世界No.1ブランドを目指す



- 製販一貫を強みとした市場ニーズへのスピーディな対応による優位性確立
- 顧客ネットワークを活用したマーケティング活動の強化
- 欧州事業とのシナジー効果によるグローバル展開の加速

## 3. 現地生産・現地販売を推進する。



世界各国にあるクリヤマグループのネットワークを活かした各拠点での生産・販売体制の拡充を目指す

# クリヤマグループ経営戦略

## 国内営業戦略

1. 「MONTURA」(イタリア製スポーツアパレル)の販売拡大
2. スポーツ・オリジナル建材の再構築

# 国内事業戦略

## 1. 「MONTURA」(イタリア製スポーツアパレル)の販売拡大



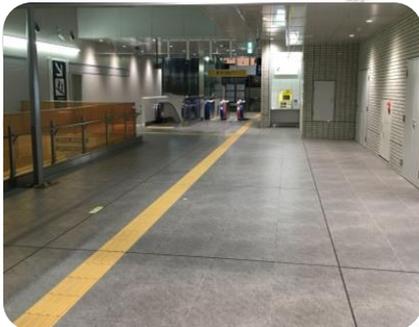
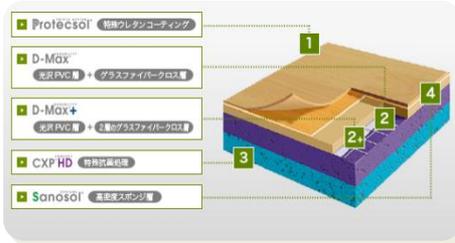
- スポーツアパレルにおけるラグジュアリーブランドとしての地位確立
- 日本企画ライセンス商品の拡充によるブランド認知と訴求力の向上
- セレクトショップ、ECサイトへの展開強化と新規出店の増加



「MONTURA Shop ALBi 大阪」

# 国内事業戦略

## 2. スポーツ・オリジナル建材の再構築



- 防災拠点としてのタラフレックスの販売拡大
- 商業施設、鉄道施設、公共エクステリア向け当社オリジナルタイル・ブロック等の開発
- 商品と工事の選別受注による効率的な収益体制の構築

## 4. 東京2020採用実績

# 新国立競技場

モンドトラック(全天候型ゴム製トラック)を陸上競技用トラックとして採用

テレビ・新聞取材、ネットニュースへの掲載と各種メディアからの問い合わせも増加

# 各種室内競技場

タラフレックス(弾性スポーツシート)

# 有明アリーナ「東京都江東区」

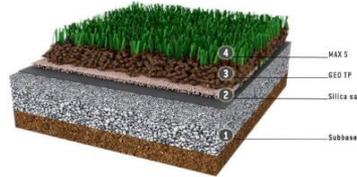
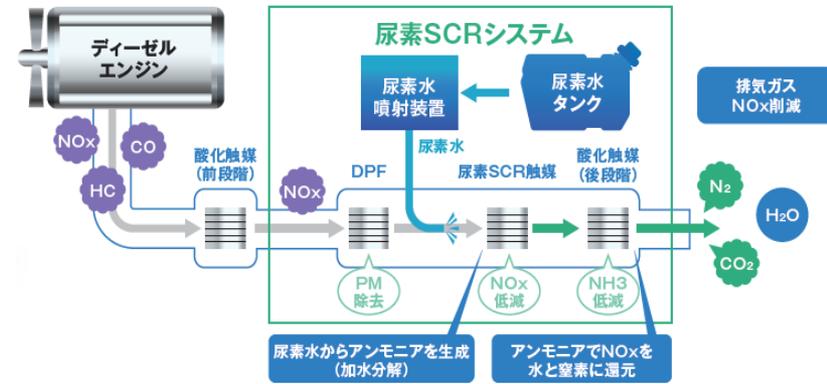


「エコ&セーフティーエクステリア」  
(外部用タイル・ブロック)

## 5. ESGへの取り組み

# ESGへの取り組み

- 排ガス中の窒素酸化物(NOx)を除去する「尿素SCRシステム」による大気汚染対策
- 都市型洪水やヒートアイランド現象を抑制するリサイクルタイルの開発
- 天然素材の充填剤を使用し、温度抑制効果の高い人工芝の展開
- CO2排出量低減に配慮したセメントの使用



LIMONTA

SECTION MAX S - GEO TP



# ESGへの取り組み

- 視覚障がい者を守る点字タイル、滑り防止のノンスリップタイル、「スキマモール」(ホームと列車の間対策商品)による安全への貢献
- 防災拠点としての「タラフレックス」の活躍
- 特定非営利活動法人日本ブラインドマラソン協会(JBMA)への協賛活動推進
- 日本トップリーグ連携機構(JTL)を機構設立時よりサポートし、日本のスポーツ振興に貢献



# ESGへの取り組み

- 社員からのカイゼン提案を反映した「働き方改革」の推進
- 奨学金返済支援制度導入や、出産・子育て支援の充実化
- 多様な人材の受け入れによるダイバーシティの推進
- 創業80年の経験と信頼を次世代に継承、持続的成長の実現
- 海外の取締役も含めた株式報酬制度の導入
- コーポレートガバナンス体制の強化
- 投資家との対話を重視したIR活動の強化



創業80周年記念祝賀会開催



## 6. 補足資料

# 補足資料1 要約貸借対照表①

## 〔資産の部〕

(単位:百万円)

	2018/12	2019/12	増減額
現金及び預金	5,976	5,947	△28
受取手形・売掛金 (電子記録債権含む)	8,940	9,489	+549
たな卸資産	13,126	12,529	△597
その他	731	619	△112
<b>流動資産合計</b>	<b>28,774</b>	<b>28,585</b>	<b>△188</b>
有形固定資産	9,069	10,171	+1,101
無形固定資産	1,848	1,450	△398
投資その他の資産	5,893	6,300	+406
<b>固定資産合計</b>	<b>16,811</b>	<b>17,921</b>	<b>+1,110</b>
<b>資産合計</b>	<b>45,585</b>	<b>46,507</b>	<b>+921</b>

期末レート 米国\$: 2018年12月 → 111.00円    2019年12月 → 109.56円  
 ユーロ€: 2018年12月 → 127.00円    2019年12月 → 122.54円

# 補足資料2 要約貸借対照表②

## 〔負債・純資産の部〕

(単位:百万円)

	2018/12	2019/12	増減額
支払手形・買掛金 (電子記録債務含む)	8,132	7,224	△907
借入金(1年内長借含)	7,526	7,119	△406
その他の	2,435	2,541	+105
流動負債合計	18,094	16,885	△1,209
借入金	5,214	5,036	△177
その他の	1,592	2,230	+637
固定負債合計	6,806	7,266	+460
負債合計	24,900	24,152	△748
株主資本合計	20,204	21,821	+1,616
その他包括利益合計	448	502	54
非支配株主持分	31	31	△0
純資産合計	20,685	22,355	+1,670
負債、純資産合計	45,585	46,507	+921

# 補足資料3 キャッシュフロー、設備投資等

(単位:百万円)

	2018/12	2019/12	増減額
営業CF	476	2,972	+2,945
投資CF	△1,810	△1,411	+398
FCF	△1,333	1,560	+2,894
財務CF	1,643	△934	△2,577
現金及び 現金同等物	5,445	5,946	+500

(単位:百万円)

設備投資額	1,538	1,742	+204
減価償却費	1,258	1,393	+134
のれん償却	136	136	△0
研究開発費	328	345	+16

# 補足資料4 業績見通し

(百万円)

	2019年実績	2020年予想	前期比 (%)	POINT
売上高	55,130	56,500	+2.5	
営業利益	3,114	3,200	+2.7	
経常利益	3,175	3,300	+3.9	
当期利益	2,030	2,200	+8.4	
ROE (%)	9.4	9.5	+1.0	
自己資本比率(%)	48.0	49.4	+2.9	
有利子負債増減額 CFベース(減少△)	△519	402	—	
設備投資額	1,742	2,353	+35.1	
減価償却費	1,393	1,351	-3.0	
1株当たり配当金	20円	21円	1円増配	増配傾向を維持

為替	2019年実績	2020年予想	為替感応度		主な要因 (百万円)
			売上高	営業利益	
USD	109.24	105	△863	△387	
EUR	122.15	116	△221	10	

# 本資料にかかる注意事項

この資料は投資家の参考に資するため、クリヤマホールディングス株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

今後新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

※本資料は新型コロナウイルスによる影響は考慮されておられません。



## ＜お問い合わせ先＞

クリヤマホールディングス株式会社 社長室  
〒540-6325 大阪市中央区城見1丁目3番7号  
松下IMPビル25階

E-Mail : [IR@kuriyama.co.jp](mailto:IR@kuriyama.co.jp)

TEL 06-6910-7023 FAX 06-6910-7035

<https://www.kuriyama-holdings.com>